

1 命を守り、育み、伝えるために

目次

命を守り、育み、伝えるために

P. 1 はじめに、目次

P. 2 福島原発事故から 10 年

あのとき日本は—「東日本壊滅」になるかもしれないなかった

P. 3 大爆発に向かっていった福島第一原発 2 号機

P. 5 干上がりつつあった 4 号機プール

あのとき私たちは—

P. 7 それぞれでそれぞれの渦の中にいた

P. 9 正常性バイアスがはびこり出していた

私たちの目覚めの広がり

P.11 率先避難と感謝と悲しみと

P.13 残っている人を助けたい

P.15 かつて女性たちが動きだした

世の中の目覚めの広がり

P.17 原発がどんどん減りだした

P.19 裁判も変わりだした

P.21 核燃料サイクルの行きづまり

P.23 原発輸出もダメになった

P.25 民衆の力、自分たちの力を自覚することが大事

P.27 福島以外にもたくさんの放射性物質が降った

P.29 被曝によって白血球の数が減る

P.31 保養で心と身体を癒すことができる

P.33 放射線を避けることは中高生にも大きな意味がある

P.35 保養と避難について考える

P.37 なぜ被曝の危険性が大きく扱われないのか

P.39 被曝影響を少なく見積もることでは東と西が一致していた

P.41 生活から原発や放射性物質のことを考えよう

P.43 被害を受け止めてこそ能動的になれる

P.45 あとがき